

高齢者虐待のケース:〇〇さん(脳卒中の事例) 演習結果例

ワーク解答例

Q1. どのようなことがあったと想像しましたか？ ご自分の経験から、自由に考えてください。

- ・乱暴な扱い
- ・暴言
- ・イライラのはけ口的介助
- ・声かけの無い強引な介助
- ・動作への協力などの説明を省いた
- ・できる動作を無視して介助
- ・乱暴に仰臥位から側臥位にした
- ・オムツ交換時、無理に乱暴に開脚させた
- ・女性利用者を男性職員がオムツ交換していること
- ・片麻痺を考えていない(片麻痺の知識がない)介助方法
- ・ムツとした表情で、無言での介助
- ・もしや、1度目の時には無視(ネグレクト)
- ・ナースコールを鳴らせない状態にした

Q2. Q1の中で何が「虐待」だと思いましたか？ なぜ、そのような虐待が起こったと考えますか？

- ・^{あざ}瘡＝身体的虐待
- ・乱暴な扱いによる身体的・精神的苦痛
- ・暴言による精神的苦痛
- ・32歳と言う若さ
- ・イライラを自分で解消できないまま仕事をしている
- ・ご利用者を乱暴に扱うことで、自分のイライラを解消
- ・人手不足
- ・ストレス
- ・相談できる同僚や上司が居なかった
- ・疲労の蓄積
- ・声かけが無い
- ・介助時の力が強い
- ・加減が分からない
- ・シフトの問題はなかったのか
- ・激務
- ・コミュニケーション不足
- ・職員にやさしい施設でなかった
- ・ご利用者のことを考えないマイペース
- ・ご利用者の身体状況の把握不足
- ・時間に追われていた
- ・気持ちに余裕がない
- ・乱暴することによってのイライラ解消
- ・夜勤に入る前に、十分に睡眠をとっていなかった
- ・自己管理ができない
- ・職場もプライベートも、人間関係が上手く行っていない
- ・空腹が我慢できなかった
- ・普段の食生活が乱れ、栄養不足であった
- ・仕事とプライベートの ON-OFF ができない
- ・普段から給与等の待遇に不満があった

- ・排泄介助やコールに対するプレッシャー
- ・頻繁にナースコールが鳴らされた

Q3. これら虐待を未然に防ぐには、「これまで」と「今後」、どのようなことが必要だと考えますか？

- ・アンガーマネジメントを含むメンタルのコントロール法の習得
- ・勤務改善
- ・相談できる職場体制づくり
- ・ストレスチェック
- ・個人の生活から仕事への切り替え
- ・研修や OJT(On the Job Training)による知識と技術の向上
- ・研修効果の測定
- ・職場の雰囲気改善
- ・施設長や介護主任などから、職員への頻繁な声かけ
- ・睡眠を良く取って、体調を整える
- ・仕事に見合った待遇
- ・きちんと食事をして、栄養状態を良くする
- ・研修により、プロ意識を高める
- ・全員での、接遇の頻繁な確認
- ・人員補充による人材不足の解消
- ・休憩時間とその場所を改善する
- ・経営者サイドのマネジメント不足
- ・声で訴えられない職員のための毎月の困りごとアンケート
- ・介護サービスの統一化
- ・全員で、手順書の確認と見直し
- ・非接触センサーやインカムの導入による生産性向上
- ・この利用者に関するケア内容の再検討